

予断なき検証にほど遠い八ッ場ダムの検証

国交大臣が再三言明してきたように予断を持つことなく、客観的・科学的に八ッ場ダムの是非を検証しなければならないにもかかわらず、関東地方整備局の検証報告案は、中止方針の撤回を企図した、事業継続の結論が先にあるダム検証になっている。

1 利水についての検証の虚構

(1) 利水予定者の水需給計画をそのまま容認

東京都をはじめとする利水予定者は、現実と乖離した水需給計画によって本来は不要な水量を八ッ場ダムに求めており、利水の検証では何よりもまず、各利水予定者の水需給計画をきびしく審査しなければならない。ところが、今回の検証では関東地方整備局は利水予定者の水需給計画をそのまま容認して、その要求水量を確保する利水代替案との比較しか行わなかった。

①水需要の実績と乖離した予測を容認

東京都を例にとれば、図1のとおり、東京都の一日最大配水量は1992年度からほぼ減少の一途を辿っているのに、都の予測では大きく増加していくことになっている。このような架空予測から八ッ場ダムの必要量が算出されているが、今回の検証ではこの架空予測がそのまま罷り通っている。

②利水予定者の保有水源の意図的な過小評価も容認

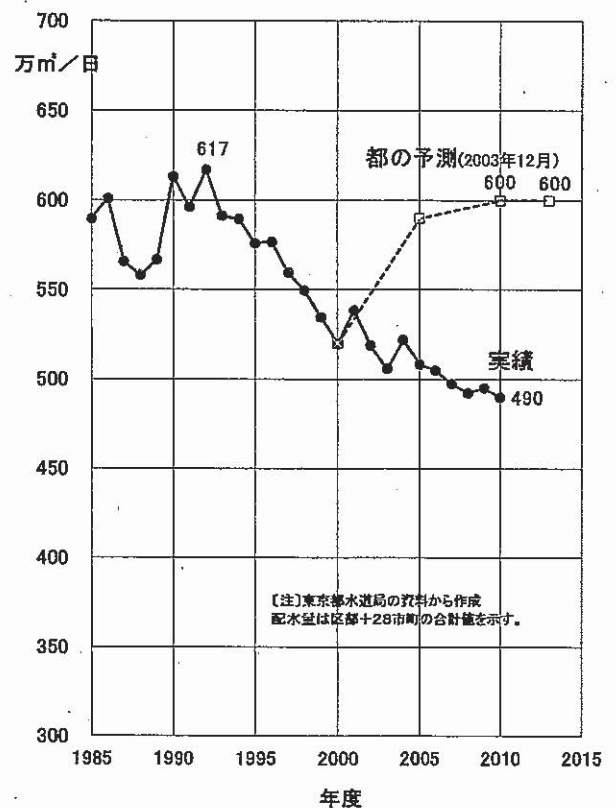
保有水源の過小評価もそのまま容認されている。たとえば、東京都は多摩地域の地下水約40万 m^3 /日を水道水源としてカウントしていない。これは多摩地域の水道で実際に長年使われてきて今後とも利用可能な水源であるが、都の水需給計画では水需給に余裕が生じ過ぎては困るので、保有水源から落とされている。このような保有水源の意図的な過小評価もそのまま認められた。

(2) 現実性のない利水代替案との比較

八ッ場ダムの開発量は22.209 m^3 /秒(日量192万 m^3)であるが、今更そのように大量の水源を得る手段があるわけがなく、八ッ場ダムの開発量の確保を前提としている限り、現実性のある代替案が出てくるはずがない。四つの非現実的な利水代替案との比較で八ッ場ダムが最適だという判断がされた。

利水代替案には静岡県富士川河口部から導水することを中心とする案まである。富士川から利根川までの導水は現実にはあり得ない話である。この利水代替案の費用は八ッ場ダムの残事業費の約20倍にもなっている。

図1 東京都水道の一日最大配水量の実績と予測



2 治水についての検証の虚構

(1) 過大な目標洪水流量の設定

治水対策案は、河川整備計画で想定している治水安全度と同程度の目標を達成することを基本として立案することになっている。利根川水系では河川整備計画が未策定であるので、今回の検証で関東地方整備局は河川整備計画相当の目標流量を 17,000 m³/秒（八斗島地点）とした。しかし、この値は、八斗島地点の洪水流量の実績と比べると、著しく過大である。利根川の最近 60 年間の最大流量は 1998 年の 9,960 m³/秒（ダム戻し量を含む）であり、17,000 m³/秒はその 1.7 倍にもなる。

利根川水系河川整備計画の策定作業が開始された 2006～08 年度の段階（その後、理由不明のまま、策定作業を中断）で関東地方整備局が示した目標流量は約 15,000 m³/秒^[注]であって、今回は約 2,000 m³/秒も引き上げた。これによって、八ッ場ダムの必要度を高める条件がつけられた。

関東地方整備局は臆面もなく、治水計画の数字を八ッ場ダム事業に都合のよいように変更したのである。

[注] 当時の関東地方整備局の河川整備計画素案は 1/50 洪水を想定して、目標流量を約 15,000 m³/秒（当時の委託調査報告書に記載）、河道対応流量を 13,000 m³/秒（当時の局配布資料に記載）とし、ダム等による洪水調節量を約 2,000 m³/秒としていた。今回の検証では洪水調節量も 3,000 m³/秒に引き上げられた。関東地方整備局は今回の 17,000 m³/秒を 1/70～1/80 規模の洪水としている。

(2) 八ッ場ダムの治水効果の過大評価

今回の検証で示された八ッ場ダムの治水効果は図2のとおり、従来の値より格段に大きい数字である。治水代替案の費用が跳ね上がるように、関東地方整備局が八ッ場ダムの効果を大きく引き上げた疑いが濃厚である。

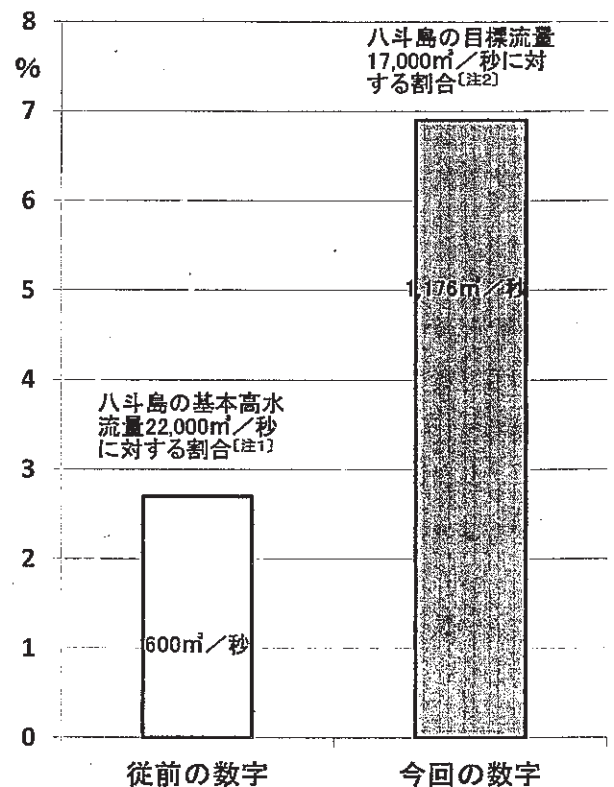
従来、関東地方整備局は八ッ場ダムの削減効果は基本高水流量 22,000 m³/秒（八斗島地点）に対して平均 600 m³/秒であると言明してきた。22,000 m³/秒に対する削減率は 2.7% である。ところが、今回、関東地方整備局が示したのは、八斗島地点 17,000 m³/秒に対する八ッ場ダムの削減効果が平均 1,176 m³/秒で、削減率は 6.9% になり、従来の 2.7% の 2.6 倍にもなっている。

今まで国土交通省が公表してきた数字が大きく変わってしまったのである。従来の数字は何であったのか。国土交通省のご都合主義によって科学的根拠なく数字が操作されていると思わざるを得ない。

(3) 上記の数字の操作で治水代替案がひどく高額に

上記の（1）、（2）の数字の操作により、八ッ場ダムに代わる治水代替案は費用が高んで、八ッ場ダムの残事業費よりはるかに高額となり、八ッ場ダムが最適案として選択されるようになっていく。

図2 関東地方整備局による八ッ場ダムの削減効果



[注1]31洪水の引き伸ばし計算結果の平均
[注2]8洪水の引き伸ばし計算結果の平均